

日本語(国語) 【中2】 指導カリキュラム

日本語テキスト



ユニット・指導内容・指導単元一覧表

- 1ユニットの指導モジュール配分は、日本語力のステップに応じて比率を決める。
現在の日本語カレベルと現在の学年の学習内容、1ユニット・モジュール配分比率は、概ね下記のようにする。

	ステップに応じた指導内容	:	現在の学年学習内容
【S1】	8	:	2
【S2】	7	:	3
【S3】	5	:	5
【S4】	2	:	8

『指導ユニット・モジュール数配分例』

31	:	8	(モジュール数39モジュールの場合)
19	:	8	(モジュール数27モジュールの場合)
9	:	9	(モジュール数18モジュールの場合)
2	:	7	(モジュール数 9モジュールの場合)

日本語(国語)【中2】4月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中2 4月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S4】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7

ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
<p>見えないだけ</p> <p>言葉の使い方や表現の特徴 『詩』</p>	<p>「好きな表現を見つけ、感じたことが伝わるように声に出して読もう。」</p> <p>◎言葉の使い方や表現の特徴に着目し、自分なりの感想をもちながら読む。</p> <p>【S1】 詩を通読する。 ・好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。</p> <p>【S2】 詩の表現に着目し、題名に込められた作者の思いを捉える。</p> <p>【S3】 詩の特徴を生かして朗読する。</p> <p>【S4】 作品を通して感じたことや、友達と話し合ったことを基に、詩の特徴が効果的に伝わるように工夫して朗読する。</p>
<p>【語彙・表現】 見えないだけ</p> <p>空の上には もっと青い空が浮かんでいる 波の底には もっと大きな海が眠っている 胸の奥で ことばがはぐくんでいる優しい世界 次の垣根で 蕾をさし出している美しい季節</p> <p>少し遠くで 待ちかねている新しい友だち</p> <p>あんなに確かに在るものが まだここからは見えないだけ</p> <p>【新出漢字】 石垣</p>	
<p>アイスプラネット</p> <p>登場人物の言動・心情 『読む』</p>	<p>◎登場人物の言動に着目して、人物の関係や心情の変化を捉える。</p> <p>◎登場人物の考え方や生き方などについて、自分の経験などと関連づけて考えをもつ。</p> <p>★小説を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。</p>

- 【S1】 作品を通読する。
 ・ 注意する語句・新出漢字を調べる。
 ・ 「ぐうちゃん」に対する「僕」、「母」、「父」それぞれの思いがわかる発言や行動を挙げる。
- 【S2】 登場人物の言動や心情を表す表現から、「僕」の心情の変化を捉える。
 ・ 場面展開に沿って、「ぐうちゃん」に対する「僕」の気持ちの動きを捉える。
- 【S3】 「ぐうちゃん」からの手紙と写真を受け取った「僕」の心情を読み取る。
 ・ 手紙の文面から、「ぐうちゃん」の考えや思いを捉える。
 ・ 手紙と写真を受け取った「僕」の心情を、これまでの言動と結び付けて読み取る。
- 【S4】 「ぐうちゃん」の生き方や考え方について自分の経験と比べながら感想をもつ。

【語彙・表現】

測量 ダイヤル 精密 いかにも 蛇行 はるかに めったに……ない 口実 極端

【新出漢字】

怪談 吹奏楽 切手を貼る 怒号 脚本 雄花 荷物を詰める 近郊 取り扱う 手を突く 赴任 勘当 大慌て 唯一 逃走 股
 関節 機嫌 撮影 開封
 雌花 鎖でつなぐ 弾劾 勃興 窒息 窯出し 逸材 急逝 喫茶 喝破 喚問

要点を整理して聞き取る

◎目的や状況に応じ、話の要点や順序を整理しながら聞き取る。

話の要点や順序
『聞く』

- 【S1】 「店の人の話」を聞き、必要な情報をメモする。
 【S2】 聞き取ったことを説明する。
 【S3】 「上達のポイント」を読み、情報を整理して聞き取るために注意することを理解し、日常生活や学校生活に生かす。

季節のしおり 春
 春の情景
 和歌・短歌や俳句
 『季節』

◎ 二十四節気という言葉や、春の情景を詠んだ和歌・短歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。

【語彙・表現】

春の岬旅のをはりの鷗どり浮きつつ遠くなりけるかも

せりなづな ごぎやうはこべら ほとけのぎ すずなすずしろ これぞ七草

外にも出よ触るるばかりに春の月

雨水 降る雪が雨に変わり、土が揃い始める頃。現在の2月19日頃。旧暦の1月。
 春分 昼が長くなり、夜とほぼ同じ長さになる日。現在の3月21日頃。旧暦の2月。
 穀雨 穀物を育てる雨の降る季節ということ。現在の4月20日頃。旧暦の3月。

日本語(国語)【中2】5月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中2 5月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S4】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
枕草子 四季を描いた情景描写 『古文』 『季節』	◎日本の四季を描いた情景描写の巧みさを読み取り、作者の四季の捉え方や感じ方について自分の考えをもつ。 ◎伝えたいことを明確にし、自分の季節感が効果的に伝わるように、描写や構成を工夫して書く。 ○朗読を通して言葉の響きや調子を楽しみ、四季折々の風物に寄せる作者のものの見方、感じ方に触れる。 【S1】「枕草子」を朗読し、古文に読み慣れる。 【S2】現代語訳を参考に、情景を想像しながら読み、言葉の響きや調子に親しむ。 ・新出漢字を調べる。 【S3】心に残った季節の一節を暗唱する。 【S4】四季の趣について、作者の感じ方を読み取る。 ・季節ごとに、作者が「何」の「どんな様子」を「どう感じた」かについて整理する。
【語彙・表現】 山ぎは 紫 山の端 火桶 【新出漢字】 紫雲 蛍光 趣味 霜柱	
多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る 構成のしかたや情報の活用 『聞く』 『書く』	◎社会生活の中から紹介する事柄を決め、多様な方法で情報を集めながら、自分の考えをまとめ、構成を考えて書く。 ◎書いた作品を読み合い、構成のしかたや情報の活用のしかたなどについて助言し合い、自分の考えを広げる。 【S1】情報を集める。 ・何について調べるか決める。 ・多様な方法で情報を集める。 (図書館・資料館・インターネット・身の回り・調査・聞き取り) 【S2】情報を整理し、考えをまとめる。 ・集めた情報を整理する。 ・自分の考えをまとめる。 【S3】紙面構成を考える。 ・割り付け(レイアウト)

- ・ 内容の順序・分量
- ・ 図表やグラフ、写真など
- 【S4】 下書きをし、紙面を作る。
- ・ 下書き
- ・ 推敲→清書

【新出漢字】

一房のぶどう 憧れの人 誇示

漢字1
熟語の構成

◎熟語の構成について理解する。

『漢字』

- 【S1】 導入の例を基に、熟語の構成について考える。
- 【S2】 教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。
- 【S3】 練習問題に取り組む。

【語彙・表現】

二字以上の漢字を組み合わせてできた語を、熟語という。

『二字熟語の主な構成』

意味が似ている漢字の組み合わせ。 拡大……拡（ひろげる）＋大（おおきい） 思考・規則・縮小・山岳・搭乘 など

意味が対になる漢字の組み合わせ。 善悪……善（よい）＋悪（わるい） 前後・売買・強弱・禍福・慶弔 など

主語と述語の関係。 地震……地が震える 国営・雷鳴・日照・人造 など

下の漢字が上の漢字の目的や対象を示す。 洗顔……顔を洗う 登山……山に登る 開会・造園・遷都・帰郷・就職 など

上の漢字が下の漢字を修飾する。 軽傷……軽い傷 激増……激しく増える 水路・熱心・俊足・猛犬・逆流 など

『三字熟語の主な構成』

漢字一字の言葉の組み合わせ。 衣食住……衣＋食＋住 上中下・松竹梅 など

漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ。

上に打ち消しの意味の「不・無・非・未」や、下に「的・性・化」などが付いたものも多い。

大成功…大＋成功 専門家…専門＋家 不安定…不＋安定 絶対的…絶対＋的 初対面 肖像画 無意味 可能性 など

『四字以上の熟語の主な構成』

漢字一字の言葉の組み合わせ。 春夏秋冬……春＋夏＋秋＋冬 花鳥風月 など

二字熟語の組み合わせ。 課外授業……課外＋授業 国際交流 など

漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ。 大雨注意報……大雨＋注意＋報 運転免許証 など

【新出漢字】

弔 肖 霧 妄 岳 雷 免 秩 疾 搭 遷 淨 妥 迅 禍 俊 没 奔 鯨 慶 猛 兼 哀 篤

日本語(国語)【中2】6月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中2 6月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 42：10** **【S2】 25：11** **【S3】 12：12** **【S4】 3：13**

ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
<p>生物が記録する科学 —バイオロギングの可能性</p> <p>序論・本論・結論 『文』</p>	<p>◎文章の構成や、事実と考えの示し方に着目して、説明のしかたの特徴を捉える。 ◎説明されている内容を的確に捉え、ものの見方や考え方を広げる。</p> <p>★説明を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べる。</p> <p>【S1】 文章を序論（話題提示）・本論（具体的な説明）・結論（まとめ）の三つのまとまりに分け、文章構成を捉える。 【S2】 本論を読み、調査で明らかになったことを二つに分けて捉える。 【S3】 本論での説明のしかたの特徴を、事実と筆者の考えの示し方などに着目して捉える。 【S4】 筆者が「バイオロギング」のどんな点に可能性を感じているかを捉え、それに対して感じたこと、考えたことを話す。</p>
<p>【語彙・表現】 エンペラーペンギン オキアミ 集団繁殖地 ユニーク 視点 人工 そもそも ワシントン岬 アデリーペンギン 効率 ウェッデルアザラシ 一致 捕食者</p> <p>【新出漢字】 了解 潜水 狙撃 繁栄 胆力 殖産 拓本 小鳥の餌 大気圏 岬を歩く 安眠 【新出漢字】 木の洞 洞窟 一睡 勲功 殉死 分岐 霊前 そびえる峰 峡谷 一旦 うなぎの肝 阻止 租借</p>	
<p>説明のしかたを工夫する</p> <p>伝えたい事柄 『書く』</p>	<p>◎伝えたい事柄をわかりやすく伝えるために、説明のしかたを考えながら文章を書く。</p> <p>【S1】 身近な物の中から説明したい事柄を選ぶ。 ・ 「衣・食・住」など、なるべく身近な物 【S2】 事柄について、何を説明したいかを明らかにして、ふさわしい説明のしかたについて考える。 【S3】 説明のしかたを決め、説明する内容について考える。 【S4】 選んだ説明のしかたに沿って、構成を考え、文章にまとめる。</p>
<p>魅力的な提案をしよう プレゼンテーションをする</p> <p>プレゼンテーション 『話す』 『聞く』</p>	<p>◎情報を多様な方法で集め、聞き手を想定して整理し、わかりやすい説明の構成や展開を考える。 ◎資料や機器を活用し、写真や図表などと言葉を効果的に組み合わせて説明する。</p> <p>★調べてわかったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりする。</p>

	<p>【S1】 提案する相手・目的・事柄を決め、材料を集める。 ・ 日常生活、図書館、インターネットなどから情報を集める。 【S2】 材料を整理し、進行案を作る。 【S3】 進行案を基に、プレゼンテーションを行う。</p>
<p>メディアと上手に付き合うために 情報コラム 著作権について知る</p> <p>メディアの特徴 『読む』</p>	<p>◎メディアの特徴について書かれた文章を読んだり、自分で多様なメディアから情報を集めて比較したりして、メディアとの付き合い方について自分の考えをもつ。</p> <p>★新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較する。</p> <p>【S1】 「メディアと上手に付き合うために」を通読する。 ・ 注意する語句・新出漢字を調べる。 ・ テレビ、新聞、インターネットの特徴を、表などにまとめる。 ・ 筆者の「メディア」に対する考え方を読み取る。 【S2】 「いろいろなメディアから得た情報を比べよう」を通読する。 【S3】 メディアとの付き合い方について考える。 【S4】 「著作権について知る」を通読し、著作権について知識を深める。</p>
<p>【語彙・表現】 リポーター 一面トップ パソコン スクラップ</p> <p>【新出漢字】 錯乱 移籍 同伴 虚栄 偽証 【新出音訓】 早速 次第 優れる</p>	
<p>言葉1 類義語・対義語・多義語</p> <p>『語彙』</p>	<p>◎類義語と対義語、多義語の意味や用法について理解し、語感を磨き、語彙を豊かにする。</p> <p>【S1】 導入の課題に取り組み、言葉どうしの関係性に興味をもつ。 【S2】 教材文を読み、類義語・対義語・多義語について理解する。</p>
<p>【新出漢字】 豚 隅 廉 裂 剣 傘 摺 鈴 踐</p>	

日本語(国語)【中2】7月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中2 7月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 21 : 5 【S2】 13 : 5 【S3】 6 : 6 【S4】 2 : 6

ユニット 『観点』・日本語テキスト	指導内容
<p>新しい短歌のために 短歌を味わう</p> <p>短歌 『読む』</p>	<p>◎解説文の筆者のものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつ。 ◎短歌に示された語句の効果的な使い方や描写の効果を理解し、情景を想像しながら朗読する。 ◎心情や情景が伝わるように、描写を工夫して短歌を創作する。</p> <p>★短歌を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べ合う。 ★表現の仕方を工夫して短歌を作る。</p> <p>【S2】「新しい短歌のために」を通読し、短歌の特徴などを知るとともに、五首それぞれに込められた心情や情景を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 注意する語句・新出漢字を調べる。 ・ 歌われている情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。 ・ 短歌の特徴についてまとめる。 ・ 筆者のものの見方や感じ方が表れている語句や表現などの意味を考える。 ・ 五首の解説を基に、短歌の表現の工夫と効果について、確認する。 <p>【S3】「短歌を味わう」のそれぞれの作品を読み、表現の工夫や効果、思い浮かべた情景や心情について考えを述べ合う。</p> <p>【S4】「短歌を創作しよう」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目にした情景、心に残る出来事や感動したことなど、題材を探して短歌を作る。
<p>【語彙・表現】 定型 詩や歌などを作るときのある決まった型。 ありあり 綿密 あどけない 風土</p> <p>【新出漢字】 恋愛 菊人形 惜敗 研磨</p> <p>【新出音訓】 紅 率直</p>	
<p>言葉を比べよう</p> <p>似た気持ちを表す言葉 『語彙』</p>	<p>◎似た気持ちを表す言葉を比べ、言葉のもつ意味について考え、語感を磨く。 ◎言葉の微妙な違いが効果的に伝わるように、題材や構成、描写を工夫して物語を書く。</p> <p>【S1】 教材文を読む。 【S2】 言葉の微妙な違いについて考える。 【S3】 活動を通して、言葉の共通点や相違点を明確にする。 【S4】 似た意味の言葉を使って物語を書く。</p>

<p>言葉を比べよう</p> <p>随筆 『読む』</p>	<p>◎ 「言葉の本質」についての筆者の考えを読み取り、自分の考えを深める。</p> <p>★随筆を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。</p> <p>【S1】文章を通読する。 ・ 注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>【S2】文章を三つのまとまりに分け、それぞれの内容を要約する。</p> <p>【S3】言葉についての筆者の考えを読み取り、自分の考えをもつ。 ・ 「言葉の一語一語」を「桜の花びら一枚一枚」にたとえた筆者の考えを読み取る。 ・ 文章を読んで感じた、言葉に対する自分の考えをまとめる。</p>
<p>文法への扉 1 単語をどう分ける？</p> <p>自立語 『文法』</p>	<p>◎活用のある自立語と活用のない自立語の性質や働きを理解する。</p> <p>【S2】単語が幾つかの観点で分類されることを確かめる。</p> <p>【S3】自立語の各品詞の性質などについて理解する。 ・ 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</p>
<p>【語彙・表現】 自立語</p> <p>①活用する自立語 1 動詞 2 形容詞 3 形容動詞</p> <p>②活用しない自立語 1 名詞 2 副詞 3 連体詞 4 接続詞 5 感動詞</p>	
<p>世界で一番の贈り物 二年一組のお薦め三十五冊 読書案内 読書コラム たまには、少し 変わった本を</p> <p>読書 外国文学 『読む』</p>	<p>◎登場人物の言動の意味や展開、表現のしかたなどに着目して読み、作品に込められたものの見方や感じ方を捉え、自分の考えを深める。</p> <p>◎本に関する情報を多様な方法で集め、自分の考えをまとめる。</p> <p>★物語を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。</p> <p>★新聞やインターネット、学校図書館の施設などを活用し得た情報を比較して整理する。</p> <p>【S1】「世界で一番の贈り物」を通読する。 ・ 構成や場面展開の工夫に着目して、作品を味わう。</p>
<p>季節のしおり 夏</p> <p>夏の情景 『季節』</p>	<p>◎ 二十四節気という言葉や、夏の情景を描いた散文や短歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</p>
<p>【語彙・表現】 夏のかぜ山よりきたり 三百の牧の若馬耳ふかれけり</p> <p>小満 草木がしげって天地に満ち始める頃の意。現在の5月21日頃。旧暦の4月。</p> <p>夏至 北半球で、昼間が最も長く夜が最も短い日。現在の6月21日頃。旧暦の5月。</p> <p>大暑 一年中で暑さの最も厳しい季節ということ。現在の7月23日頃。旧暦の6月。</p>	

日本語(国語)【中2】9月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中2 9月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 31：8** **【S4】 19：8** **【S3】 9：9** **【S4】 2：7**

ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
<p>盆土産 『読む』</p>	<p>◎作品の構成や登場人物の描写に着目して、人柄や心情を読み取る。 ◎作品に描かれている優しさや温かさなどを、表現に即して読み味わう。</p> <p>★物語を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。</p> <p>【S1】 作品を通読する。(場面が変わる「時」に着目する) ・ 新出漢字、注意する語句を調べる。 ・ 三つの部分それぞれに描かれた内容をノートに整理する。</p> <p>【S2】 時間の経過や出来事に着目し、登場人物の人柄や心情を捉える。 ・ 登場人物の言動や様子を描いた表現から、人柄や心情を考える。</p> <p>【S3】 方言の効果について考える。「えびフライ」「えんびフライ」が出てくる場面</p> <p>【S4】 具体的な表現を挙げ、いちばん印象に残る場面について自分の考えを述べる。</p>
<p>【語彙・表現】 盆 河鹿 カジカガエル 漬ける 敏感 唐突 訂正 釣る 分校 雑魚 まき餌 荏胡麻 ジャッコ釣りな ジャッコ釣りがい。 殺生はいけない 生そば(きそば) 囲炉裏 串焼き 濁る 乗るすけ うめもんせ 心もとない 著しい(いちじるしい) 沼 すり潰す すこぶる 砕く 唾液 湾曲 粒 跳ねる 柵 病む(やむ) 噴き上げる ばためぐなじゃ あみだがぶり ハンチング 上がり框 流儀 せっかち 煙 六尾 ずんぶ大きかえん 畦道 帰ったてな 寸断 すくめる 偉そう なんとえ なくならえ じつくと 氣勢をそぐ はらはらする 怖い 支度(シタク) 精進 残すのせ きしむ 同調 緻密 精進(ショウジン) 尋常 不明瞭 食卓 冬だら そうでもなかべおん スチーム 夏どこでなくいるべおん とって付けたよう しゃくり上げる とっさに 崖つぶち んだら 車掌</p> <p>【新出漢字】 暖炉 湾岸 偉業 盆地 串刺し 粒子 恐怖 漬け物 濁音 跳馬 精緻 敏速 沼地 鉄柵 一目瞭然 唐紙 箱が潰れる 噴火 卓見 改訂 碎石 煙幕 断崖 釣り銭 生唾 尾根 合掌</p> <p>【新出音訓】 生そば(きそば) 著しい(いちじるしい) 病む(やむ) 支度(シタク) 精進(ショウジン)</p> <p>【新出漢字】 畏敬 活躍 座礁 僚友 墳墓</p>	
<p>字のない葉書 『読む』</p>	<p>◎人物の言動や様子の描写に着目して、人柄や心情を捉える。 ◎筆者の父親への思いや家族のきずな、人間関係について自分の考えをもつ。</p> <p>★随筆を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。</p> <p>【S1】 作品を通読する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新出漢字、注意する語句を調べる。 【S2】 文章中に書かれた二つの思い出の内容をノートに整理する。 ※ 必要に応じて、時代状況を解説する。 1年生「大人になれなかった弟たちに……」の学習も思い出させるとよい。 【S3】 登場人物の人柄や心情を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 父親の言動から、その人柄や心情を捉える。 ・ 妹に対する家族の心情を、妹が置かれた状況の変化に沿って想像する。 ・ なくなった父親に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているかを考える。 【S4】 父親に対する「私」の思いについて、共感できることや共感しにくいと思うことを発表し合う。
<p>【語彙・表現】 女学校 三日にあげず おろそか こそばゆい 折り目正しい ～殿 訓戒 学童疎開 東京大空襲 暗幕を垂らした暗い電灯 キャラコ 命からがら おびたしい 照れ性（てれショウ） 他人行儀 遭う 肌着 縫う 雑炊 うらなり はしゃぐ ぼた餅 吐き出す 叱る 叫ぶ</p> <p>【新出漢字】 縫合 殿下 餅屋 戒律 吐息 儀式 叱責 遭難 絶叫 岩肌</p> <p>【新出音訓】 照れ性（てれショウ）</p>	
<p>推敲して適切な文章に直す</p> <p>『書く』</p>	<p>◎書いた文章を読み返して推敲し、言葉の使い方や表記に誤りがない文章にする。</p> <p>【S2】 教材文を読み、言葉の使い方や表記の誤りについて発表し合う。</p> <p>【S3】 「上達のポイント」の四つの観点を基に、教材文を書き直す。</p>
<p>気持ちを込めて書こう</p> <p>手紙を書く</p> <p>『書く』</p>	<p>◎伝えたい気持ちや用件を明確にし、効果的に伝わるよう表現や構成を工夫して手紙を書く。</p> <p>◎手紙の書き方を知り、推敲して相手や目的に応じた手紙を書く。</p> <p>★社会生活に必要な手紙を書く。</p> <p>【S1】 教材文を読み、手紙の書き方を知る。</p> <p>【S2】 相手と目的、内容を決めて下書きをする。</p> <p>【S3】 友達どうして下書きを読み、気づいたことを話し合う。 友達の助言も踏まえて推敲する。</p> <p>【S4】 清書して、手紙を送る。 手紙以外の通信手段について考える。</p>

日本語(国語)【中2】10月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中2 10月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 42：10 【S2】 25：11 【S3】 12：12 【S4】 3：13	
ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
モアイは語る —地球の未来	<p>◎文章の構成や論の展開に着目して、筆者の主張を捉える。 ◎構成や展開の工夫や筆者のものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。 ★論説を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べる。</p> <p>【S1】 作品を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 【S2】 筆者たちの研究以前にわかったこと、筆者たちの研究によってわかったことを確認する。 【S3】 筆者の論の展開と主張を捉える。 ・序論での問いや問題に対応した説明を確認する。 ・本論の話題に応じた小見出しを付ける。 ・イースター島と地球の状況から筆者の主張を捉える。</p>
<p>【語彙・表現】 イースター島 種子島 ポリネシア ヒョウタン タロイモ 凝灰岩 黒曜石 ころ 火口湖 ボーリング 炭片</p> <p>【新出漢字】 巨大 孤島 膨大 謎 栽培 軟らかい 凝灰岩 硬い 大抵 運搬 堆積 薪 放棄 土壌 浸食 抗争 頻発 恒常 飢餓 漆黒 地獄</p>	
言葉2 敬語	<p>◎敬語の働きについて理解する。 【S1】 導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。 【S2】 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。 【S3】 教材文を読み、敬語の組み合わせについて考える。</p>
<p>【新出漢字】 伺 賓 為 謙 御 愚 幣 拙 粗</p>	
漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字	<p>◎同訓異字や同音異義語などの意味・用法の違いについて理解する。 【S1】 教材文を読み、同じ訓をもつ漢字の文脈に合わせた使い分けを考える。 【S2】 教材文を読み、同音異義語について理解する。 【S3】 練習問題に取り組む。</p>
<p>【語彙・表現】 (冒す 侵す) <囹る 諮る> <捕る 執る> <射る 鑄る> <排出 輩出> <苦汁 苦渋> <驚異 脅威> <干涉 感傷> <並行 平衡> <教授 享受> <奇跡 軌跡></p> <p>【新出漢字】 診 陳 社 慨 紳 侵 倫 諮 弦 執 鑄 排 渋 脅 涉 衡 享 弧 軌</p>	
季節のしおり 秋	<p>◎ 二十四節気の言葉や、秋の情景を描いた散文や短歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</p>

<p>【語彙・表現】 処暑 暑さがやむの意。この頃から朝夕涼しくなる。現在の八月二十三日頃。旧暦の七月。 秋分 昼が短くなり、夜とほぼ同じ長さになる日。現在の九月二十三日頃。旧暦の八月。 霜降 霜が降り始める季節ということ。冬近い頃。現在の十月二十三日頃。旧暦の九月。</p>	
音読を楽しもう 平家物語	<p>◎朗読して、古典の世界を楽しむ。 【S2】「平家物語」の主な内容と文章の特徴を知る。 【S3】教材文を朗読（音読）、あるいは暗唱する。</p>
扇の的 —「平家物語」から	<p>◎古典の文章を朗読して、その独特の調子やリズムに慣れ、作品を読み味わう。 ◎登場人物の言動から心情を理解し、作品に描かれたものの見方や考え方について自分の考えをもつ。 【S1】全文を通読し、新出漢字、注意する語句を調べる。 【S2】「平家物語」の冒頭部分や、「扇の的」を繰り返し朗読する。 【S3】場面の状況と登場人物の心情を考える。 【S4】「平家物語」に描かれたものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。</p>
<p>【新出漢字】 扇 僅か 突如 舟 沖 漂う 面 浦 堪える 黒革 八十余騎 嘲笑 悔しい</p>	
仁和寺にある法師—「徒然草」 から	<p>◎古典の文章を朗読して表現に慣れ、作品を読み味わう。 ◎登場人物に対する作者の考えを述べた部分から、ものの見方や考え方について自分の考えをもつ。 【S1】全文を通読し、新出漢字、注意する語句を調べる。 【S2】「徒然草」の冒頭部分と、「仁和寺にある法師」の原文を繰り返し朗読する。 【S3】登場人物の行動を捉え、作者のものの見方考える。</p>
<p>【語彙・表現】 係り結び ある事象や行為などに対する、作者や登場人物の感動や疑問の気持ちなどを、より強調するとき用いられる。</p>	
漢詩の風景	<p>◎漢詩特有の言葉遣いや調子を生かして読み味わう。 ◎漢詩に歌われている情景や人物の心情を想像し自分の考えをまとめる。 【S1】全文を通読し、新出漢字、注意する語句を調べる。 【S2】漢詩特有の言葉遣いや調子に着目し、三編の漢詩を繰り返し朗読する。 【S3】漢詩に描かれた季節、情景、作者の心情を読み味わう。</p>
<p>【語彙・表現】 絶句 起承転結 起句 転句 三編 律詩 対句</p>	
<p>【新出漢字】 暁 俗人 平凡 雰囲気 締めくくる 散り敷く 又 茂る 楼 浪人 帆かけ舟</p>	

日本語(国語)【中2】11月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中2 11月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 42：10** **【S2】 25：11** **【S3】 12：12** **【S4】 3：13**

ユニット『観点』・日本語テキスト

指導内容

君は「最後の晩餐」を知っているか

◎語句や表現の工夫に着目して、筆者のものの見方や考え方を読み取る。

【S1】 作品を通読し、新出漢字、注意する語句を調べる。

【S2】 初めて知ったことや興味をもったことを書き出す。
「評論」という文章の形態について確認する。

【S3】 「最後の晩餐」に使われている「解剖学」「遠近法」「明暗法」について説明する。
筆者が「最後の晩餐」を「カッコいい。」と思った理由を説明する。

【S4】 文末表現に「だろう」「ではないか」など、主観的な表現が多く用いられていることに注意させ、使われている語句と「評論」という文章の形態との関係も意識させる。

【語彙・表現】

やはり 解剖学 理屈 衝撃 失意 原理 託す 容貌 天井 狭い 偶然 目のあたり あくまで 色彩 既に
ミラノ サンタ・マリア・デッレグラツィエ修道院 芝居 水紋 磔刑 動揺 タピスリー

【新出漢字】 刑事 彩色 解剖 託児所 既製 屈指 風貌 城郭 衝動 井戸 芝を刈る 道が狭い 波紋 偶然

【漢字の読み】

①庭の芝を刈る。 ②井戸の水をくむ。 ③緩衝材を入れる。 ④既刊の本を買う。 ⑥舟を岸につなぐ。

【熟語の構成】

①摩擦 ②興廃 ③配膳 ④論旨
ア執筆 イ油膜 ウ刑罰 エ屈伸 オ水紋 カ色彩 キ鍍金 ク精粗

【同じ部首の漢字】

①〈言〉 囑託 宣誓 朗詠 ②〈心〉 悔恨 哀愁 追悼 遺憾

【同じ訓読みの漢字】

①重要な職務に〈就く・付く〉。 ②布をはさみで〈断つ・裁つ・絶言〉。
③作家が自伝を〈表す・著す・現す〉。 ④彼を責任者に〈押す・推す〉。

【新出漢字】 摩天楼 擦り傷 名が廢る 食膳 主旨 皮膜 委囑 将来を誓う 詠歌 不運を恨む 郷愁 哀悼 遺憾

話し合って考えを広げよう
パネルディスカッションをす

◎社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定して考えをまとめ、論理的な構成を考えて話す。

る

◎相手の意見や考えを尊重しながら目的に沿って討論し、互いの発言を比較・検討しながら自分の考えを広げる。

【パネルディスカッション】

あるテーマ（論題）について、異なる意見をもつ三～五名のパネリスト（発表者）がフロア（聴衆）の前で討論した後、フロアも討論に加わって全体で議論を深める話し合いの方法。

【パネリスト】

ある立場を代表して、意見とその根拠を簡潔にわかりやすく発表する。パネリストどうしで、互いの意見について質問や反論をし合う。

☆上達のポイント

- ・賛成・反対だけを言うのではなく、右の例のように、別の根拠を補足したり解決策を提案したりしながら発言する。
- ・次のような表現を参考に、相手の話を受けて発言するとよい。
- ・相手の話を要約する。「つまり」「今の話をまとめると」
- ・相手の話を言い換える。「言い換えれば〇〇ということ」

文法2 用言の活用

- ・後に付く言葉や、文中での働きにより、単語の形が規則的に変化することを**活用**という。
- ・活用によって変化した単語の形を**活用形**という。活用しても常に変化しない部分を**語幹**、変化する部分を**活用語尾**という。
- ・活用形は、次にどのような言葉が続くかによって、**未然形・連用形・終止形・連体形・仮定形・命令形**の六種類に分けられる。

1 動詞の活用

- ①五段活用・・・活用語尾が、五十音のある行の「ア・イ・ウ・エ・オ」（五段）に沿って変化する。
- ②上一段活用・・・活用語尾に五十音の「イ」段の音が入り、その音を中心に「イ・イル・イル・イレ・イロ」と変化する。
- ③下一段活用・・・活用語尾に五十音の「エ」段の音が入り、その音を中心に「エ・エル・エル・エレ・エロ」と変化する。
- ④カ行変格活用・・・「来る」の特殊な活用。
- ⑤サ行変格活用・・・「する」と、「勉強する」など「する」が付く動詞の特殊な活用。

◆音便（動詞の場合）

五段活用の連用形に「た」や「て」が付くとき、発音しやすいように音が変わる場合がある。これを**音便**という。

動詞の音便には、次の三種類がある。

- ・イ音便・・・「い」に変化する。
- ・促音便・・・「っ」に変化する。
- ・撥音便・・・「ん」に変化する。

◆可能動詞の活用

「・・・できる」という意味を含んだ動詞を可能動詞という。可能動詞は、五段活用の動詞をもとにした、下一段活用の動詞である。ただし、命令形はない。

2 形容詞・形容動詞の活用

・形容詞・形容動詞も活用するが、動詞とは異なり、命令形がない。また、動詞と形容詞は終止形と連体形が同じだが、形容動詞では形が異なる。

日本語(国語)【中2】12月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中2 12月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S4】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
意見文の説得力を考える	<p>◎伝えたい内容を明確にし、相手に効果的に伝わるよう根拠の示し方を工夫して書く。</p> <p>【S1】 ABの教材文を読み、説得力のある方を選び、その理由を考える。 【S2】 「上達のポイント」を読み、根拠の示し方や反論を踏まえている点に気づく。</p>
<p>上達のポイント</p> <p>○意見を支える根拠として、客観的な事実を挙げる。 ○根拠と意見を結び付ける。 ○反論とそれに対する考えを示す。</p>	
根拠を明確にして意見を書こう	<p>○社会生活の中から課題を決めて、情報を集め、自分の意見をもつ。 ○自分の意見とその根拠を明確にして、文章構成を工夫して書く。</p>
【新出漢字】 余剰 一括 循環 肢体 危惧 草稿	
落葉松	<p>◎表現のしかたに注意して、自分の考えをもちながら読む。</p> <p>【S1】 詩を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 【S2】 表現技法や連の構成などの表現のしかたに着目し、情景や作者の感じ方を捉える。</p>
<p>落葉松</p> <p>北原白秋</p> <p>一</p> <p>からまつの林を過ぎて、 からまつをしみじみと見き。 からまつはさびしかりけり。 たびゆくはさびしかりけり。</p> <p>二</p> <p>からまつの林を出でて、 からまつの林に入りぬ。 からまつの林に入りて、 また細く道はつづけり。</p>	<p>五</p> <p>からまつの林を過ぎて、 ゆゑしらず歩みひそめつ。 からまつはさびしかりけり、 からまつとささやきにけり。</p> <p>六</p> <p>からまつの林を出でて、 浅間嶺にけぶり立つ見つ。 浅間嶺にけぶり立つ見つ。 からまつのまたそのうへに。</p>

三

からまつの林の奥も
わが通る道はありけり。
霧雨のかかる道なり。
山風のかよふ道なり。

四

からまつの林の道は
われのみか、ひともかよひぬ。
ほそぼそと通ふ道なり。
さびさびといそぐ道なり。

七

からまつの林の雨は
さびしけどいよよしづけし。
かんこ鳥鳴けるのみなる。
からまつの濡るるのみなる。

八

世の中よ、あはれなりけり。
常なけどうれしかりけり。
山川に山がはの音、
からまつにからまつのかぜ。

文法への扉 2
走る。走らない。走ろうよ。

◎用言の活用について理解する。

- 【S1】 教材文を読み、動詞の形の変化について考える。
- 【S2】 p244文法2「用言の活用」で、動詞の活用について考える。
- 【S3】 p244文法2「用言の活用」で、形容詞・形容動詞の活用について考える。

動詞・形容詞・形容動詞の語の形の変化のしかた

歩く → 歩かない 歩けば
 笑う → 笑わない 笑えば
 起きる → 起きない 起きれば
 食べる → 食べない 食べれば

季節のしおり 冬

◎ 二十四節気の言葉や、冬の情景を描いた散文、短歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。

【語彙・表現】

国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。
夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。
川端康成「雪国」より

街をゆき子供の傍を通る時
蜜柑の香せり冬がまた来る

木下利玄

赤き実と見てよる鳥や冬椿

炭 太祇

冬のこよみ

小雪 しょうせつ 雪国で雪が降り始める季節ということ。現在の十一月二十二日頃。旧暦の十月。
 冬至 どうじ 北半球で、昼が最も短く夜が最も長い日。現在の十二月二十二日頃。旧暦の十一月。
 大寒 だいかん 一年中で寒さの最も厳しい季節ということ。現在の一月二十日頃。旧暦の十二月。

日本語(国語)【中2】1月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中2 1月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S4】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7

ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
走れメロス	<p>◎心情を表す語句や、登場人物の言動の意味などを考え、人物像の変化を捉え作品を読み深める。 ◎表現のしかた及び主人公の考え方について、根拠となる部分を挙げて自分の考えをもつ。 ★小説を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。</p> <p>【S1】 作品を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 【S2】 人物・時・場所・出来事などに着目して、作品を幾つかの場面に分け、構成を確認する。 【S3】 描写や会話に着目して、登場人物の人物像の変化を捉える。 ・最初のメロスの描かれ方。 ・王城内での「メロス」と「王」の会話から「王」の描かれ方。 ・村から刑場に向かう途中での「メロス」の考え方や人物像の変化の描かれ方。 【S4】 「メロス」の行動や考え方について、共感できたところや、できなかったところを、その理由とともに考えながら話し合う。</p>
<p>【語彙・表現】 邪知暴虐の王 竹馬の友 ひっそり 花婿 花嫁 衣装 (イショウ) 祝宴 牧人 十里 シラクス 巡邏 はばかり 賢臣 人質 (ひとジチ) 警吏 惘笑 問い詰める いきり立つ 正当 私欲 眉間 民 (たみ) 傑刑 うぬぼれる 無二 ほくそ笑む 報い る (むくいる) 命乞い 亭主 じだんだ (を踏む) 縄 調える (ととのえる) 車軸を流す 呆然 陽気 満面 喜色 満面 得 意満面 たたえる 未練 承諾 新郎 蒸し暑い (むしあつい) 蒙雨 生涯 酔う 南無三 信実 奸佞 邪知 夢見心地 悠々 茫 然 繫舟 ゼウス 照覧 獅子奮迅 憐愍 はたと立ちすくむ 哀願 拳 湧く 汎濫 荒れ狂う 誠 (まこと) 章駄天 希代 ひ るむ まさしく 思うつぼ 胴震い 山賊 殴り倒す 隙 仰ぐ 萎える 芋虫 路傍 精も根も尽きる 真紅 (シンク) 欺く 定 法 やんぬるかな 四肢 せんせん 無心 独り合点 まさか 卑劣 醜い 五臓 仰天 小耳に挟む 小首をかしげる 小腹が減る 遂行 悪魔 蹴飛ばす 挟む 風体 (フウテイ) 塔楼 裸体 弟子 (デシ) 言うにや及ぶ どよめく 抱擁 歔歔 緋 まじま じ 空虚 赤面 万歳 (バンザイ)</p> <p>【新出漢字】 邪悪 残虐 婿入り 嫁ぎ先 宴会 賢者 官吏 眉毛 雨乞い 料亭 縄文 承諾 新郎 豪快 境涯 心酔憲法 湧水 汎濫 濫用 狂喜 胴上げ 賊軍 地を殴る 隙間 信仰 萎縮 里芋 傍観 世を欺く 卑近 醜悪 完遂 魔法 一蹴 差し挟む 裸眼 擁護</p> <p>【新出音訓】 衣装 (イショウ) 人質 (ひとジチ) 民 (たみ) 報いる (むくいる) 調える (ととのえる) 蒸し暑い (むしあつい) 誠 (ま こと) 真紅 (シンク) 風体 (フウテイ) 弟子 (デシ) 万歳 (バンザイ)</p>	

文法への扉 3
一字違いで大違い

◎付属語について理解する。

- 【S1/S2】 教材文を読み、付属語の働きについて関心をもつ。
【S3/S4】 文法3「付属語」を読み、助詞の働きと種類について理解する。
下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。

【語彙・表現】

- ・ 来年（は）がんばろう。
→ 今年の試合は負けたので、来年の試合をがんばろう。
- ・ 来年（も）がんばろう。
→ 今年の試合と同じように、来年の試合をがんばろう。

「こそ」→より強調される

「から」「まで」→期間が限定される。

「う」を付ける→話し手の意志を表す。

表現のしかたを工夫して書こう

◎場面や気持ちの変化が効果的に伝わるように、文章の構成や描写を工夫して書く。

日本語(国語)【中2】2月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中2 2月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 42：10** **【S2】 25：11** **【S3】 12：12** **【S4】 3：13**

ユニット『観点』・日本語テキスト	指導内容
言葉3 方言と共通語	◎方言と共通語の果たす役割について理解する。 【S1】 導入の「捨てる」の例から、地域による言葉の違いについて考える。 【S2】 教材文を読み、方言と共通語について考える。 ・語句・表現・文法・発音の違い。 ・共通語の必要性。 【S3】 「生活に生かす」を読み、方言と共通語のそれぞれの役割や特徴について意見を交流する。
【新出漢字】 猫 滑 湿	
科学はあなたの中にある	◎抽象的な語句に注意しながら、事例と主張の関係を考えて内容を理解する。 ◎筆者の「科学」に対する考え方について、知識や体験を結び付けて考える。 【S1】 全文を通読し、新出漢字、注意する語句を調べる。 【S2】 「科学」という言葉から思い浮かぶ物事や体験を挙げる。 【S3】 「ろうそくにまつわる二つの話」についての事例をまとめる。 【S4】 事例と「科学とは何だろう。」という筆者の問いとの関連を話し合う。
【語彙・表現】 毛細管現象 一斉 炎 芯 臭い 産業革命 電磁誘導 電気分解 先入観 遡る 牛脂 意表を突く 壇上 軍艦 生態系 エコロジー ガス灯 概念 摂理 固定観念 燃焼 概念 摂理 素朴 相対性理論 ヒッグス粒子 結実 極める 沸く 災い	
【新出漢字】 斉唱 炎天下 鉛筆の芯 臭気 川を遡る 花壇 戦艦 概数 摂取 純朴 沸点 【新出音訓】 燃焼 極める 災い	
新しく習った漢字 1次の——線部の言葉を読もう 【漢字の読み】 ①のどに炎症が見られる。 [] ②小説の梗概を書く。 [] ③滑稽な話を聞く。 [] ④花壇に水をまく。 [] 2次の——線部の熟語の対義語を選ぼう。【対義語】 ①湿潤な土地に住む。 [] ②仕事が円滑に進む。 [] ③ごみ箱から悪臭がする。 [] ④クラスで校歌を斉唱する。 [] 芳香 乾燥 独唱 停滞 3次の——線部は〈 〉が部首の漢字である。 それぞれの熟語を読もう。【同じ部首の漢字】	

- ① 〈手〉 撮取 [] 挫折 [] 披露 []
 ② 〈水〉 沸騰 [] 洪水 [] 分泌 [] 沙汰 []

新しく習う音訓

1 次の——線部の漢字を、() 内の読みとの違いに注意して読もう。【漢字の読み】

- ① 河川を調査する。(川遊び) ② 機織りの実演を見る。(機械)
 ③ 旅客機に乗る。(客間) ④ 小児科にかかる。(児童)

【新出漢字】 症候群 脳梗塞 稽古 大地が潤う 焦燥 仕事が滞る 挫傷 披見 騰貴 洪水 分泌 沙汰 音沙汰

漢字3
 送り仮名

- ◎送り仮名の付け方の基本を理解する。
 【S1/S2】送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。
 【S3/S4】教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。
 練習問題に取り組む。

活用のある語の送り仮名の付け方

動詞 原則 活用語尾を送る。

通らない 通ります 通る 通れば 通れ 通ろう 通わない 通います 通う 通えば 通え 通おう

形容詞 原則 活用語尾を送る。 軽かろう 軽かった 軽くなる 軽い 軽ければ

[例外] 語幹が「し」で終わる形容詞は、「し」から送る。 美しい 悲しい 等しい

形容動詞 原則 活用語尾を送る。 主だろう 主に 主だ 主な 主なら

[例外] 活用語尾の前に「か」「やか」「らか」を含む形容動詞は、その部分から送る。 暖かだ 軽やかだ 明らかだ

※「動く」という語を含む「動かす」のように、他の語を含む語は、含まれている語の送り仮名の付け方にそろえる。

動く 照る 重い 動かす 照らす 重たい

活用のない語の送り仮名の付け方

名詞 原則 送り仮名をつけない。 後(あと・のち) 井 丘 堤 寿

[例外] 次のような語は、最後の音節を送る。 後ろ 自ら 便り 誉れ

※活用のある語が変化して名詞になった語、活用のある語に「さ」「み」「げ」などが付いて名詞になったものは、元の語の送り仮名の付け方にそろえる。

薫る(動詞) 正しい(形容詞) 重い(形容詞) 薫り(名詞) 正しさ(名詞) 重さ(名詞)

副詞・連体詞・接続詞 原則 最後の音節を送る。 必ず 再び 全く

※「努める」という語を含む「努めて」のように、他の語を含む語は、含まれている語の送り仮名の付け方にそろえる。ただし、副詞・連体詞・接続詞は、平仮名で書くことも多い。

努める(動詞) 少ない(形容詞) 努めて(副詞) 少なくとも(副詞)

【新出漢字】 井 堤 寿 誉 薫 懲 謹 粘 鍛 怠 妨 鈍 憂 偏

日本語(国語)【中2】3月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中2 3月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 21 : 5 【S2】 13 : 5 【S3】 6 : 6 【S4】 2 : 6

ユニット 『観点』・日本語テキスト	指導内容
鍵	<p>◎言葉の意味を考えながら作者が詩に込めた思いを捉え、自分の考えをもつ。 ★詩を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。</p> <p>【S1/S2】詩を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 【S3/S4】一つ一つの言葉の意味を考えながら読み、作者の思いを捉える。 ・「鍵」についての表現から、それがどのようなものか、何を象徴しているのかを捉える。 ・詩全体から「この世」に対する作者の思いや考えを捉える。</p>
<p>鍵</p> <p style="text-align: center;">茨木のり子</p> <p>一つの鍵が 手に入ると たちまち扉はひらかれる 硬く閉された内部の隅々まで 明暗くっきりと見渡せて</p> <p>人の性格も 謎めいた行動も 物と物との関係も 複雑にからまりあった事件も なぜ なにゆえ かく在ったか どうなろうとしていたか どうなろうとしているか あっけないほど すどん と胸に落ちる</p> <p>ちっぽけだが それなくしてはひらかない黄金の鍵 人がそれを見つけ出し きれいに解明してみせてくれたとき ああ と呻く 私も行ったのだその鍵のありかの近くまで もっと落ちついて ゆっくり佇んでいたら</p>	

探し出せたにちがいない
 鍵にすれば
 出合いを求めて
 身をよじっていたのかも知れないのに

木の枝に無造作にぶらさがり
 土の奥深くで燐光を発し
 虫くいの文献 聞き流した語尾に内包され
 海の底で腐蝕せず
 渡り鳥の指標になってきらめき
 束になって空中を ちゃりりんと飛んでいた

生きいそぎ 死にいそぐひとびとの群れ
 見る人が見たら
 この世はまだ
 あまたの鍵のひびきあい
 ふかぶかとした息づきで
 燦然と輝いてみえるだろう

他学年との縦断的指導内容			他教科との横断的指導内容	
※ 日本の文化	※ アニメーション	※ 擬声語・擬態語一小3	● 『社会科』	一世界の国々、民族衣装、国旗、祝日
※ 季節(四季)の行事など	※ 語い(ものの名前など)	※ 慣用句一小4	● 『生活科』	一季節の「生きもの」「植物」「行事」
※ 漢字練習	※ 文、文型練習	※ ことわざ一小4	● 『理科』	一季節と生きもの(植物・生物など)
※ 朗読	※ 早口ことば一小1	※ 故事成語一小4	● 『理科』	一星座

文法 一年生の復習

1 言葉の単位

文は、次のような単位に分けられる。 ・文 ・文節 ・単語

- ・文 一まとまりの内容を表す一続きの言葉。最後に「。(句点)」を付ける。
- ・文節 発音や意味のうえで不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまり。間に「ね」などを入れて自然に区切れるかどうかを確認する。
- ・単語 言葉の意味を壊さないように文節をさらに細かく分けた、それだけで使える言葉の最小単位。

2 文の成分

文は、文節が相互に関係をもつことで組み立てられている。
文を組み立てる部分となる時、文節や連文節が果たす役割を、文の成分という。

文節どうしの関係

文の成分

- ・主・述の関係 主語・述語 (主部・述部)
- ・修飾・被修飾の関係 修飾語 (修飾部)
- ・接続の関係 接続語 (接続部)
- ・独立の関係 独立語 (独立部)

・主・述の関係 [主語 (部)・述語 (部)]

主語 (部) = 「何 (誰) が」を表す。

述語 (部) = 「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」「ない」を表す。

・修飾・被修飾の関係 [修飾語 (部)]

修飾語 (部) = 他の文節を説明したり、内容を補ったりする。

・接続の関係 [接続語 (部)]

接続語 (部) = 文と文、文節と文節をつなぐ。

- ・寒かった。だから、行かなかった。
- ・寒かったので、行かなかった。

・独立の関係 [独立語 (部)]

独立語 (部) = 他の文節とは直接関係がない。

- ・おや、つばめだ。
- ・はい、田中です。

3 単語の分類

単語は、自立語と付属語、活用の有無で大きく分類できる。

そのうえで、どんな文の成分になるか、言い切りの形は何かなどの基準で詳しく分類したものを、品詞という。

・自立語と付属語

自立語＝単独で文節を作ることができる。
付属語＝単独では文節を作ることができない。

- ・活用 文の中で使われるとき、単語の形が規則的に変化すること。
- ・体言 活用しない自立語のうち、「が・は・も」などを付けて主語となる単語（＝名詞）。
- ・用言 活用し、単独で述語になることができる自立語（＝動詞・形容詞・形容動詞）

文法1 自立語

[1] 活用する自立語 活用する自立語（用言）には、動詞・形容詞・形容動詞の三種類がある。

1 動詞

- ・活用する自立語のうち、「どうする・どうなる・ある」（動作・作用・存在）を表し、言い切りが「ウ」段の音になる単語を動詞という。
- ・動詞には、動作の対象（「何を」）を必要とする他動詞と必要としない自動詞がある。

2 形容詞

- ・活用する自立語のうち、「どんなだ」（状態・性質）を表し、言い切りが「い」になる単語を形容詞という。

3 形容動詞

- ・活用する自立語のうち、「どんなだ」（状態・性質）を表し、言い切りが「だ・です」に、名詞が続く形が「な」になる単語を形容動詞という。

[補助動詞・補助形容詞]

- ・補助の関係にある文節のうち、下に付いて、上の語に意味を補う単語を、補助（形式）動詞・補助（形式）形容詞という。

[2] 活用しない自立語 活用しない自立語には、名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞の五種類がある。

1 名詞

- ・活用しない自立語のうち、「が・は・も」などを伴って主語になれる単語を体言という。品詞では、名詞がこれに当たる。
- ・名詞は、生き物・物・事柄などを表す。
- ・名詞には、次のようなものがある。

普通名詞	ある種類に属する事物を広く表す。	〈例〉犬・学校・文化祭・出会い
代名詞	人・物・場所・方向などを指し示す。	〈例〉私・彼女・これ・あちら
固有名詞	人名・地名など特定の物事の名前を表す。	〈例〉夏目漱石・平家物語・日本
数詞	物の数量や順序を表す。数字を含む。	〈例〉一つ・二冊・三番目
形式名詞	本来の意味が薄れ、常に連体修飾語を付けて使われる。	
	〈例〉彼のことを知っている。	
	一年生のときに出会った。	

2 副詞

- ・活用しない自立語のうち、主に連用修飾語となり、様子・状態・程度を表す 単語を副詞という。
- ・副詞には、次のようなものがある。

状態の副詞 「どのように」という状態を表す。 〈例〉そっと触れる。きらきら光る。

程度の副詞 「どのくらい」という程度を表す。 〈例〉かなり甘い。ずいぶん待った。

※用言だけでなく、場所・方向・時間を表す体言や副詞を修飾することもある。

〈例〉ごく近く。ずっと昔。

かなり後ろ。もっとゆっくり。

呼応の副詞 下に決まった言い方がくる。

〈例〉たとえ……ても（でも）……。

もし……なら……。決して……ない。

3 連体詞

- ・活用しない自立語のうち、連体修飾語にしかない単語を連体詞という。
- ・連体詞の後には必ず体言が付く。

◆「○○な」の連体詞に注意

- ・静かな部屋に、キャプテンの大きな声^ナが響いた。
この文の「静かな」「大きな」は、「○○な」という同じ形をしている。
しかし、「静かな」は形容動詞、「大きな」は連体詞である。
形容動詞は、言い切りの形が「○○だ」なので、「静かだ」と言うことができる。
しかし、「大きな」は連体詞で、活用がなく「大きだ」と言うことはできない。
では、「小さい声」「小さな声」はどうだろう。
「小さい」は言い切りの形が「い」なので形容詞、「小さな」は活用のない連体詞である。

4 接続詞

- ・活用しない自立語のうち、接続語になり、前後の文や語をつなぐ単語を接続詞という。
- ・接続詞には、次のようなものがある。

順接 前に述べたことが、後に述べることの原因・理由となる。

〈例〉それで・だから・すると・したがって

逆接 前に述べたこととは逆になることが後にくる。

〈例〉しかし・けれども・ところが

並列・累加 前に述べたことと並べたり、それに付け加えたりする。

〈例〉また・そして・なお・しかも

対比・選択 前に述べたことと比べたり、どちらか選んだりする。

〈例〉または・あるいは・それとも

説明・補足 前に述べたことをまとめたり、補ったりする。

〈例〉つまり・なぜなら・例えば

転換 前に述べたことと話題を変える。

〈例〉さて・ところで・ときに

5 感動詞

- ・活用しない自立語のうち、独立語になり、応答や呼びかけ、感動などを表す単語を**感動詞**という。

文法2 用言の活用

1 活用

- ・後に付く言葉や、文中での働きにより、単語の形が規則的に変化することを**活用**という。
- ・活用によって変化した単語の形を**活用形**という。また、活用しても常に変化しない部分を**語幹**、変化する部分を**活用語尾**という。
- ・活用形は、次にどのような言葉が続くかによって、**未然形・連用形・終止形・連体形・仮定形・命令形**の六種類に分けられる。

2 用言の活用

1 動詞の活用

- ・動詞の活用は、次の五種類に分けられる。

①五段活用・・・活用語尾が、五十音のある行の「ア・イ・ウ・エ・オ」（五段）に沿って変化する。

※「ない」を付けると直前が「ア」段の音になる。

②上一段活用・・・活用語尾に五十音の「イ」段の音が入り、その音を中心に「イ・イル・イル・イレ・イロ」と変化する。

※「ない」を付けると直前が「イ」段の音になる。

③下一段活用・・・活用語尾に五十音の「エ」段の音が入り、その音を中心に「エ・エル・エル・エレ・エロ」と変化する。

※「ない」を付けると直前が「エ」段の音になる。

④カ行変格活用・・・「来る」の特殊な活用。

⑤サ行変格活用・・・「する」と、「勉強する」など「する」が付く動詞の特殊な活用。

◆「カ変」「サ変」

「カ行変格活用」と「サ行変格活用」は、それぞれ「カ変」「サ変」と省略して表すことがある。

◆音便（動詞の場合）

五段活用の連用形に「た」や「て」が付くとき、発音しやすいように音が変わる場合がある。

これを**音便**という。動詞の音便には、次の三種類がある。

・イ音便・・・「い」に変化する。（「く・ぐ」などで終わる動詞）

・書く＋た 書きた → 書いた

※例外もある。

・行く＋た 行きた → 行った

・促音便・・・「っ」に変化する。 (「う・つ・る」などで終わる動詞)
・打つ+た 打ちた → 打った

・撥音便・・・「ん」に変化する。 (「む・ぬ・ぶ」などで終わる動詞)
・読む+た 読みた → 読んだ

◆可能動詞の活用

「・・・・できる」という意味を含んだ動詞を可能動詞という。

可能動詞は、五段活用の動詞をもとにした、下一段活用の動詞である。ただし、命令形はない。

- ・飲む (五段) → 飲める (下一段)
- ・走る (五段) → 走れる (下一段)

2 形容詞・形容動詞の活用

・形容詞・形容動詞も活用するが、動詞とは異なり、命令形がない。
また、動詞と形容詞は終止形と連体形が同じだが、形容動詞では形が異なる。

◆音便 (形容詞の場合)

形容詞の連用形に、「ございます」が続くときには、ウ音便が生じる。

- ・暑く+ございます
→ 暑うございます

音便により語幹が変わることもある。

- ・楽しく+ございます
→ 楽しゅうございます

◆「平和だ」か、「平和+だ」か

①毎日が平和だ。

②最も尊いのは平和だ。

①の「平和だ」は形容動詞、②の「平和だ」は名詞の「平和」に「だ」が付いたものである。

二つを区別するためには、連用修飾語の「とても」などを入れてみるとよい。

「とても」が入る場合は、形容動詞、入ると不自然になるものは、「名詞+だ」である。

文法3 付属語

【1】 付属語

- ・ 付属語には、助詞・助動詞の二種類がある。
- ・ 活用しない付属語を助詞、活用する付属語を助動詞という。

【2】 付属語の種類

1 助詞

- ・ 活用しない付属語を助詞という。
- ・ 助詞は、自立語の後に付いて、さまざまな意味を付け加えたり、語句と語句の関係を示したりする。
- ・ 助詞には次のような種類がある。

① 格助詞

主に体言に付いて、体言とその下の語句との関係を示す。

② 副助詞

いろいろな語句に付いて、意味を付け加えられる。

③ 接続助詞

主に活用する語句に付き、いろいろな関係で前後をつなぐ。

④ 終助詞

文や文節の終わりに付いて、話し手・書き手の気持ちや態度を表す。

◆ 「の」の表す意味・用法

- ・ 人類の宝。 → 連体修飾語を作る
- ・ 僕の作った話。 → 後の動作や状態の主語を表す
「の」を「が」に置き換えられる。
- ・ この本は僕の。 → 体言の代用
「の」を「・・・のもの」「・・・のこと」に置き換えられる。

話すこと・書くことに生かす

副助詞が表す意味

① 君がリーダーだ。

② 君こそリーダーだ。

③ はどちらも同じ内容だが、「こそ」には、「君」を推す話し手（書き手）の強い思いが感じられる。

副助詞は、ある事柄に対する話し手や書き手の捉え方・取り上げ方を表す。

効果的に使って、伝えたいことを効果的に表現しよう。

2 助動詞

- ・活用する付属語を助動詞という。
- ・助動詞は、用言・体言や他の助動詞などに付いて、意味を付け加えたり、話し手・書き手の気持ちや判断を表したりする。
- ・一つの助動詞が、さまざまな意味を表す場合もある。
主な助動詞の働きには次のようなものがある。

◆ 「れる」「られる」の見分け方

「れる」「られる」には、受け身・可能・尊敬・自発の意味がある。
区別に迷うときは、次のような意味や使い方になっているか確かめよう。

- ・受け身＝「○○に・・・をされる」
- ・可能＝「・・・ができる」
- ・尊敬＝助動詞を含む文節が、尊敬語の対象となる人物の行動を表す。
- ・自発＝「自然に～」を捕らえる。

◆ 「ない」の品詞の見分け方

助動詞「ない」と補助形容詞「ない」の違いに注意しよう。

迷った場合は、同じ打ち消しの意味を表す助動詞「ぬ」に置き換えてみよう。

- ・このところ、雨が降らない。
「ない」を「ぬ」に置き換えられる。
「降らぬ」○ → 助動詞
- ・外はまだ暗くない。

「ない」を「ぬ」に置き換えられない。
「暗くぬ」× → 補助形容詞

いつも気をつけよう

一年生で学習した主な内容を示している。学習を進めるときや日常生活の中で意識していこう。

話すとき

- 声の大きさや速さ、間の取り方に気をつけて話す。
- 事実と意見の関係に注意して、わかりやすい話の構成を工夫する。
- 相手の反応を踏まえて話す。

聞くとき

- 必要な情報を的確にメモに書き留める。
- 自分の考えや体験と比べたり関連づけたりしながら聞く。
- 質問して、話の内容を確かめたり、もっと知りたいことを尋ねたりする。

話し合うとき

- 話題や方向を捉えて話し合う。
- 意見と根拠を整理して発言する。
- 相手の発言を聞いて、考えをまとめる。

書くとき

日常

- 振り返りやすいノートや記録を工夫する。

課題設定・情報整理

- 目的・相手をはっきりさせる。
- 観点を立てて情報を整理・分類する。

構成・記述

- 段落の役割を考えて、構成を工夫する。
- 自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして書く。
- 図表やグラフなどを効果的に使う。
- 引用する場合は出典を明示する。

推敲・交流

- 表記や、語句の使い方などを確かめる。
- 文章を読み合い、読みやすくしたり友達の手書き方を参考にしたりする。

文学的な文章を読むとき

- 支脈の中での語句の意味を捉える。
- 場面の展開に着目して読む。
- 登場人物の言動や情景を表す描写に着目して、心情を捉える。
- 表現の特徴について考える。

説明的な文章を読むとき

- 段落の役割や関係に着目して読む。
- 序論・本論・結論など、文章の構成に着目して読む。
- 文章の中心とそれを支える部分、事実と意見の関係に注意して読む。
- 文章と図表との関連を考えて読む。
- 目的に応じて、文章の要旨をまとめる。
- 構成や展開の工夫について考える。

学習のための用語一覧

【話すこと／書くこと】

- あ 宛名 後付け 意見文 依頼文 引用 エピソード
- か 結語 構成メモ 項目 根拠
- さ 司会 時候の挨拶 主文 順序 推敲 説明 前文 双括型 創作
- た 通信文 手紙 頭括型 頭語
- は パネリスト パネルディスカッション 比較 尾括型 封筒 フリップ プレゼンテーション
- ま フロア
- ま 末文 結びの言葉 物語（創作）
- わ 割り付け（レイアウト）

【読むこと／読書と情報】

- あ 意見と事実 インターネット
- か 語り手 構成
- さ 出典 心情 人物像 新聞
- た 題名 短歌 段落 中心的付加的な部分 著作権 定型 テレビ 登場人物の関係
- は 登場人物の設定 読書案内 読書記録
- ま 場面 評論 編集
- ま 見出し（新聞） メディア
- や 要約と要旨
- ら リード文（新聞） 論の展開

【伝統的な言語文化】

- あ アド 面
- か 係りの助詞 係り結び 漢詩 起句 起承転結 狂言 軍記物語 結句
- さ 地謡 シテ 承句 絶句
- た 転句
- な 能

は 囃子 平曲(平家琵琶)
ら 律詩
わ ワキ

感情を表す言葉 気持ちを的確に伝えるために

喜怒哀楽、人の心はさまざまに動く。そうした感情を的確に表現するための貢某を増やしていこう。

【喜びを表す】

歓喜する 小躍りする はしゃぐ 浮かれる 悦に入る 心が弾む 声を弾ませる 感涙にむせぶ 有頂天 意気揚々 狂喜乱舞
会心の笑み 満面の笑顔 天にも昇る気持ち 怒りを表す いきどおる むくれる むしゃくしゃする 怒り心頭に発する
堪忍袋の緒が切れる はらわたが煮えくり返る いまいましい 腹立たしい けんまく 激怒 立腹 噴既 逆上 烈火のごとく

【悲しみ・哀れを表す】

うなだれる 胸が張り裂ける わびしい もの悲しい やるせない 切ない やりきれない 悲痛 悲壮 哀愁 哀切 しんみり
断腸の思い 沈痛な面もち

【楽しさを表す】

興じる 満喫する たんのうする 享受する 充足する 胸を躍らせる わくわくする 愉快 痛快 爽快 快楽 心ゆくまで